

2025年度 研究、教育、社会貢献活動報告書

1. 研 究（本年度のみ）

ふりがな	ふしみ やすこ				
教員氏名	伏見 康子	職 位	准教授	学 位	博士（経営学）
アルファベット表記	Fushimi Yasuko				
専門分野		会計学			
研究課題	テーマ	簿記会計教育に関する研究			
	概要	簿記教育および会計教育について研究を続けている。学生が大学で学んだ会計学や簿記の知識を、実際の企業活動や社会人としての実践の場において、より適切に活用できるような人材の育成を目指す。そのためのカリキュラムや講義内容、さらに具体的な教授法について検討していく。			
本年度 研究業績	研究テーマ	サステナビリティと会計教育、国際会計基準の実践的課題			
	経過と到達点	昨年度に学会報告した「サステナビリティと会計教育」について、論文にまとめ、学会誌に掲載された。また、国際会計基準の適用に関する実践的課題について、研究開発に関する基準に焦点を当て共同研究を行い、学会報告を行った。さらに、報告内容をもとに論文を執筆し、学会誌に掲載予定である。			

（1）学術論文

	論文等の名称	発行年月 （西暦）	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①日本の学会誌（査読付き）	IFRS 適用の実践的課題—研究開発をめぐる会計問題を中心に—	2026 年 3 月刊行 予定	共	グローバル会計研究、第7号	国際会計基準適用企業における自己創設無形資産の認識に関する実践的課題を検討した。開発にかかる支出のうち、認識要件を満たすことが立証できる場合は資産計上が求められるが、実務においては、その判断や立証に困難性があることが明らかになった。
②海外ジャーナル（査読付き・IFなし）					

③海外ジャーナル(査読付き・IFあり)					
④国際共著論文					
⑤招待論文	サステナビリティの時代における会計教育	2025 年	単	會計	企業は利益追求のみならずサステナビリティの追及も求められる。大学教育において、これらの情報の提供者にも利用者にもなりうる学生に対して、サステナビリティの意義や情報開示の重要性を教授することの意義について検討した。
⑥その他論文					
⑦ディスカッションペーパー・書評					
⑧紀要論文					
⑨紀要研究ノート・専門誌記事					

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
①単著				
②共著				
③分担執筆				

(3) 学会発表

	学会・研修名	発表年月	発表タイトル	概要
①発表者	京都経済短期大学 経営・情報学会	2025 年 9 月 3 日	開発費をめぐる会計 基準の課題	研究開発支出に関する会計処理は、IFRS（国際財務報告基準）と日本基準の間で相違のある論点の 1 つである。両基準の違いを整理し、財務報告の情報内容を比較・検討した。
②共著者	グローバル会計学会 第 8 回大会	2025 年 9 月 2 日	IFRS 適用の実践的 課題—欧州委員会 の研究開発を巡る	EU および日本における IFRS 適用企業の適用事例を分析・検討した。また、製薬業と自動車・自

			会計問題を中心として—	動部品業の主要な企業における研究開発支出の資産計上の状況を調査した。
--	--	--	-------------	------------------------------------

(4) 外部研究資金獲得（競争的資金獲得）

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
①獲得共同研究(研究代表)				
②獲得共同研究(分担研究)				
③申請共同研究(研究代表)				
④申請共同研究(分担研究)				
⑤委託研究(企業等)				

(5) 受賞関係

	研究テーマ	受賞日	表彰名	表彰団体名

2. 教 育（本年度のみ）

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
	講義	初級簿記、簿記特講Ⅰ、財務会計論	簿記特講Ⅱ、会計学入門、 中級簿記Ⅰ
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅢ
	実習		

教育内容・方法 の工夫	◆ 簿記科目では、担当者4名との打合せを密に行い、協力体制を構築して授業を実施してきた。毎回の授業では、始めにミニテストを実施し、学生自身に前回の内容の理解を把握させ復習への取り組みを促した。授業の最後に、授業で学んだことと自身の復習が十分か否かを振り返らせ、ミニツッペーパーや Google フォームに回答させた。 ◆ 会計学入門や財務会計論などの理論科目では、会計にかかわる新聞記事などを取り上げたり、企業の有価証券報告書や決算短信を学生に調査させたりした。それによって、会計実務における現状やさまざまな課題について、学生が興味を持って検討する姿勢が見られた。また、テーマに関連する質問を提示し、学生の意見を Google フォームで収集して全体に共有しながら解説した。他者の意見や考え方も踏まえて各自の考えを深めていく機会となり、より主体的に授業に取り組む姿勢に繋げることができた。
	◆ 1 回生の基礎ゼミナールでは、グループを作って意見交換を行い、全員の前で発表するなど、学生の自立や主体的な姿勢の養成を図った。その結果、学生が主体的に運営し、さまざまな意見や考え方があることを理解し、積極的に発言もできるようになった。 ◆ ゼミナールⅡおよびⅢでは、月1回のペースで卒業論文を発表させ、学生が中心となって質疑応答をするよう進めた。他の学生の論文を参考にしながら、学生が互いに論文作成のスキルや表現方法などを高め合っていくことができた ◆ ゼミナールⅠでは、グループを作ってさまざまなテーマについて議論する活動を取り入れ、主体的に考えて発言する機会を増やした。また、簿記検定対策においては、学生同士で教え合う体制を作り、説明する力や簿記の理解を相互に高めることにつながられた。

(1) ピアレビュー・FD 発表数

	回数
①受け入れ数	1 回
②参加数	回
③FD 発表数	回

(2) 課外活動

	概要
①ゼミ特別活動	・ゼミナール研究発表会リハーサルへの参加、1・2年生情報交換会（2025年12月9日、参加1年生10名、2年生14名） ・卒業論文発表会、1・2年生交流会（2026年2月13日2月10日） ・工場見学（2026年3月30日予定）
②その他活動	・河口ゼミ研修旅行引率（2025年9月7日～10日） ・夏期簿記検定勉強会（2025年8月20日～9月16日うち全5回、参加15名） ・春期簿記検定勉強会（2026年2月12日～2月26日うち全8回、参加10名予定）

(3) 学内管理業務

	委員会名等概要
①学内委員会	教授会、執行部会、教学委員会、ハラスメント防止委員会
②学園委員会	明德学園ハラスメント防止委員会
③ワーキンググループ	
④その他	

3. 社会貢献活動（本年度のみ）

(1) 公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①教育関係	
②学会関係	
③国	
④自治体	
⑤第三者委員会	
⑥産学・地域貢献	
⑦その他	

(2) 学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
①理事長・会長	
②理事	

(3) 講演会関係

分 類	活動・講演の概要
①講演者・登壇者・学会座長	大阪高等学校「進学前教育（外部連携講座）」において、「簿記会計入門」の講師として講義2回（2025年11月14日、11月28日、各日90分）。
②その他	

4. 特記事項（本年度のみ）

・国際会計研究学会 第42回研究大会 準備委員（2029年8月29日～31日、於：神戸学院大学） ・高槻市こども会連合会 監事（一般会計および特別会計の中間監査および決算監査を実施）
--